

原発性肺癌において術前呼吸機能・併存症が治療成績・術後他病死リスクに与える影響の検討

1. 研究の意義：原発性の治療成績は、化学療法や局所療法の進歩、画像診断の進歩により向上しています。しかし、肺癌手術を受ける患者さんの高齢化に伴い様々な併存症（肺癌以外の別の病期）を持つ患者さんが増えています。そこで、術前にどのような状態の患者さんが手術を受けるときにリスクが高いのか、あるいはどのような状態の患者さんが術後に肺癌や他の病気によってなくなることが多いのかといったデータを収集することで、肺切除術を安全に行うための周術期管理や、より適切な術後フォローが行えるようになります。

2. 研究の目的：原発性肺癌において術前呼吸機能・併存症が治療成績・術後他病死リスクに与える影響を検討する。

3. 研究の対象・方法：当科にて2003年1月から2017年12月に原発性肺癌に対し肺切除を受けた患者様を対象とします。病歴、カルテ、画像所見や、臨床検査データを参照し、術後合併症の発生や術後の肺癌・ほかの病気による死亡リスクを高める術前の因子を明らかにします。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究で利用する情報は登録されている臨床情報です（性別、年齢、組織型、術前併存症、術前呼吸機能、治療内容と治療日、追加治療の有無、手術前の化学療法の有無、手術日、病期、腫瘍径、手術術式、切除根治性、補助療法の有無、最終確認日、転帰、再発部位、再発後治療など）。試料は利用しません。

5. 外部への試料・情報の提供

外部に情報を提供することはありません。

6. 研究の対象に該当する患者さんへ：プライバシーの確保のため、患者さんが特定できないようにデータを処理した上で解析を行います。また、研究結果を公表する際には、症例のグループごとでの解析結果の発表となり、患者さん個人が特定されることはありません。情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。ただし、すでに発表済みなどで必ずしもご要望に添えない場合もあることをご了承ください。

7. 研究組織

本研究は大阪大学呼吸器外科にて行われます。

研究責任者：

565-0871

大阪大学大学院 医学系研究科 外科学講座 呼吸器外科学

新谷 康

電話:06-6879-3152 Fax;06-6879-3164